

2005年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、中緯度帯で全般に東半球側を中心として正偏差に覆われた。3つの正偏差域(北太平洋中部、カナダ東部、北欧・ロシア西部)は9月から継続している。一方、東シベリア、アラスカ湾から北米西岸、大西洋東部には負偏差が分布した。

熱帯の対流活動では、インド洋東部で平年より活発だった。一方、フィリピンの東海上では平年よりも不活発だった。カリブ海では熱帯擾乱が平年より多く発生しており、対流活動は平年より活発だった。アジアモンスーンの活動度は平年並となったが、西偏傾向に転じた。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、インド洋では南北両半球に低気圧性循環偏差が見られ、赤道付近は全域で西風偏差となった。太平洋では南北両半球に弱い高気圧性循環偏差が見られ、赤道付近は西部と中部で東風偏差となった。太平洋東部には赤道上に高気圧性循環偏差がみられた。

SOI (南方振動指数) は+1.2となった。

世界の天候

- ① 日本の高温
- ② 中国北部の少雨

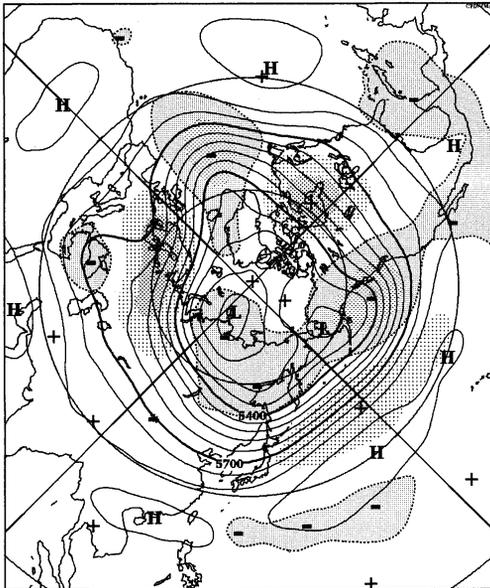
- ③ モンゴル東部の高温
- ④ 中央シベリア南部の多雨
- ⑤ 華南の高温
- ⑥ 西シベリアから中央アジア東部の少雨
- ⑦ カスピ海周辺の多雨
- ⑧ ヨーロッパ北部から東部の少雨
- ⑨ ヨーロッパ北西部の高温
- ⑩ カナダ東部の高温・少雨
- ⑪ 米国東部から中米の多雨

北大西洋からカリブ海では引き続きハリケーンが多発し、上旬のハリケーン「スタン」により、グアテマラで死者2000人以上が報じられた。中旬には観測史上最低気圧となる882 hPaまで発達したハリケーン「ウィルマ」が、メキシコなどに被害を与え、下旬にはハリケーン「アルファ」がドミニカやハイチなどで死者26人以上の被害をもたらしたと報じられた。

また、ノースカロライナ州からメイン州では、8日から降り続いた大雨で洪水が発生し、少なくとも10人が死亡、6人が行方不明となっていると報じられた。

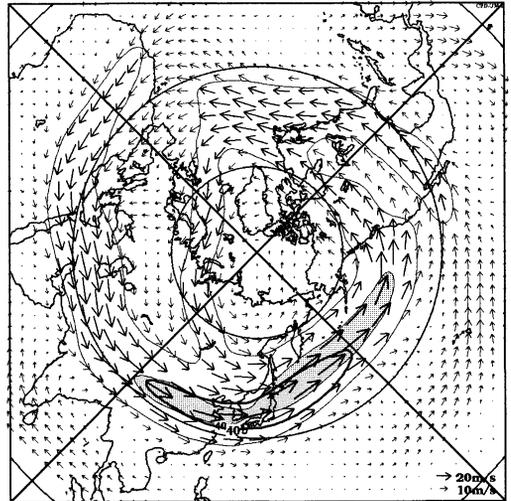
- ⑫ 五大湖の南から米国南部の少雨
- (気象庁地球環境・海洋部気候情報課 久保池大輔)

anomalies (m)
-360 -300 -240 -180 -120 -60 0 +60 +120 +180 +240 +300 +360



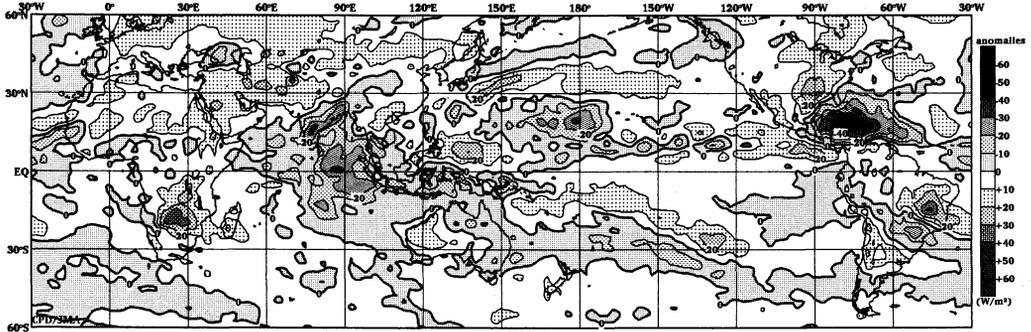
2005年10月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線の間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



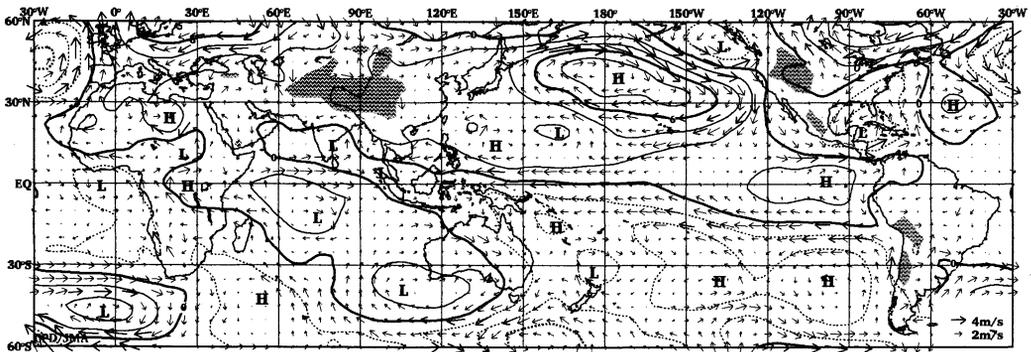
2005年10月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

等値線間隔は20 m/s. 陰影部は40 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



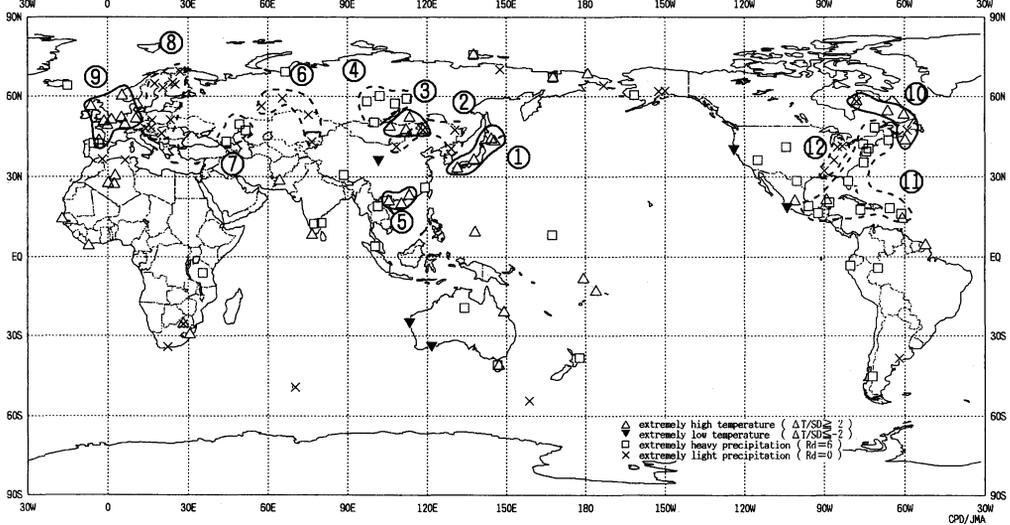
2005年10月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA, 年偏差は1979~2000年のデータから作成。



2005年10月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$. 年偏差は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2005年10月の世界の異常天候分布図

△異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している。